

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 東朋中学校区 | 校番 62 | 福山市立大谷台小学校 |
| 最終更新日 | | 2023年(令和5年)2月1日 |

I 福山市

| | |
|---------------|---|
| ミッション ビジョン | 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。 |
|---------------|---|

II 中学校区

| | | | | |
|--|---|---|--|---|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 ○コロナ禍により、一堂に会して協議を行うことはできなかったが、年間3回、各校の取組を紙面で報告した。 ○3回目の紙面協議会では、評価委員全員に今年度の各校の取組について評価をいただいた。 ○各校の取組を高く評価いただけたものが多かったが、「地域との連携、情報発信」については課題があるとのこと指摘をいただいた。 | 児童生徒の現状 ○「授業が面白い」「考えを表すことができる」等の主体的な学びに関する児童生徒の肯定的評価が8割以上であり、主体的に学ぶ意欲が高まっている。 ○昨年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、児童生徒が対面して交流する機会をもつことができなかった。 ○委員会や学級等で、児童生徒が自ら健康づくりや体力づくりに楽しく取り組めるよう考え、計画・実践している。 | 育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” ○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献) | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) ○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる | 中学校区として統一した取組等 ○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実 |
|--|---|---|--|---|

III 自校

| |
|---|
| ミッション |
| 地域・社会に貢献し、人間性豊かに社会を生き抜く子どもを育てる 挑戦 ・ 自主自律 ・ 多様性尊重 |

| |
|--------|
| 学校教育目標 |
| 学び 伸びる |

| |
|--|
| 現状 |
| <p><児童生徒> ○「学校が楽しい」と答える児童は95%であった。「授業が面白い」と思うような授業づくりや、児童の話の聴き、見通しのもてる指導を行う。 ○「人や地域のために役立つ行動ができている」と答える児童は85.7%であった。貢献の意味や具体的な貢献内容を児童に継続的に知らせていく。 ○新体力テストでの合格判定ABは66%であった。記録が低い項目に関係した運動を体育のはじめなどに取り入れる。また、児童の遊び道具を増やし、遊びの紹介を行う。 ○生活リズムが整っている児童は早寝76%、その他の項目は80%以上であった。児童自身に課題意識を持たせるため、めあてを立てさせたり、フィードバックを行って評価したりする。</p> <p><授業> ○「授業に集中して取り組むことができる」「自分の考えを表すことができる」と答える児童は、それぞれ92.9%、93.8%であった。全員を参加者にすることを意識し、発言の仕方にこだわらず、広げていく授業づくりや思考ツールの活用を図る。 ○学期末テスト80点以上の児童が、国95.2%、算84.9%、理71.6%であった。問題に印をつけたり、図を描いたりするなど課題を解くための情報の整理を行わせる。また、授業の時間配分を考え、適用題、振り返りを行う。</p> |

| 育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” | 課題発見解決能力 | コミュニケーション能力 | チャレンジ精神 (自己効力感) | 思いやりと感謝の心 (地域貢献) | |
|-------------------------|---|--------------------|------------------------------|---------------------|----------------------|
| めざす子ども像 | 5・6年 | 解決に向けて、主体的に選択・判断する | 人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する | 結果の理由を次に生かしてやってみる | 人や地域のためになることを考え、行動する |
| | 3・4年 | 解決への方法を考え、見通しを立てる | 人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える | 得意なこと苦手なことややってみる | 人や地域のためになることを考える |
| | 1・2年 | もんだいにきづき、かだいをたてる | じぶんのかんがえやきもちをいう | もくひょうをもつてやってみる | ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ |
| テーマ | 「分かる・できる」を実感し、自ら学び続ける授業づくり | | | | |
| 研究内容等 | <ul style="list-style-type: none"> 自分で「選ぶ」「決める」場の工夫 つぶやきや疑問から探究が広がり、深まる動きかけ 知識を使う場の設定と思考ツールの活用 | | | | |
| めざす授業の姿 | 対話により、安心して多種多様な考えを発現し、学びを深める授業 | | | | |

福山市立大谷台小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

| 年 目 | 中期経営目標 | 重 点 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に 向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | 最終評価(2月末) | | | | | |
|--------|---------------------------|------------------|------------------------------|---|--|---|------------------|------------|---|---|------------------|------------|----------|--|
| | | | | | | 口指標に係る取組状況 | 70以上 達成 評価 | 70未満 評価 | 改善方策 | 口指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況 | 70以上 達成 評価 | 70未満 評価 | 総合 評価 | 改善方策 |
| 1 | 子どもが主体的に学び合う授業の創造 | ★ 新規 | ・「分かる・できる」を実感し、自ら学び続ける授業づくり | ①単元の中で、児童が課題や学習内容を「選ぶ」「決める」場を設ける。 ②子どもが学びに向かう学級環境、単元導入、授業導入、ファシリテーターとしての役割を工夫する。 | ・「学びが面白い」と感じている児童アンケート80%以上 ・単元の中で、児童が課題や学習内容を「選ぶ」「決める」場を設定し肯定的評価教職員アンケート100% | ・87.6%の児童が「学びが面白い」と回答した。 ・学習の中に、体験を取り入れたり、自分たちで学びを進めたりする場を多くつくった。 ・100%の教職員が単元で「選ぶ」「決める」場を設定できていた。 ・振り返りレポートで各学年が何をしているか把握できた。 | 3 | 3 | ・対話などを通して、児童たちの力で解決することから面白さを感じさせていく。 ・他教科とのつながりを考えた取組を重点的に振り返って、グループを変えながらリフレクションを行う。 | ・86.3%の児童が「学びが面白い」と回答した。 ・様々な場面での対話を通して、児童の力で解決することができるようにした。 ・100%の教職員が単元で「選ぶ」「決める」場を設定できていた。 ・他の職員の取組をすぐに実践することで学校全体に広がっていた。 | 3 | 3 | 4 | ・自主学習で児童の「やりたい」を引き出し、掲示することで他の児童の表現方法を知り、それを活用できるようにする。 ・引き続き、他教科とのつながりを考えた取組を重点的に振り返って、グループを変えながらリフレクションを行う。 |
| 1 | 個性と多様性の尊重と、自己肯定感を持つ子どもの育成 | ★ 新規 | ・自己のよさや仲間のよさを感じることのできる子どもの育成 | ①人の役に立てる行動(貢献行動)をしレベル別に例示する。 ②各行事でめあての設定と事後の振り返りを実施する。 | ・貢献活動ができており、自分が行った貢献活動を回答できる児童アンケート85%以上 ・自己の努力したことや成長したこと実感できる児童アンケート85%以上 ・児童が主体的に取組める授業や行事の内容を計画、実施した教職員アンケート100% | ・83.3%の貢献活動ができていないと回答した。 ・82.5%の児童が自己の努力したことや成長したことを実感できていた。 ・100%の教職員が、児童の主体性を高められる授業や行事を計画・実施した。 ・各学級で貢献行動について例示した。 ・遊戯川練習や児童会行事でめあての設定と事後の振り返りを実施した。 | 3 | 3 | ・目指す子どもの姿を教職員間で共有する。 ・貢献活動の内容を統一するために掲示を作成し、全校での取組として展開する必要がある。 ・通信等で貢献活動をした児童を紹介する。 ・教職員で行う行事の反省の項目に「児童が主体的に取組める内容であったか」等の項目を追加し、意識付けを図る。 | ・85.5%の児童が貢献活動できていると回答した。 ・88.7%の児童が自己の努力したことや成長を実感できていた。 ・100%の教職員が、児童の主体性を高められる授業や行事を計画・実施した。 ・貢献活動をしレベル別に例示したが、活用方法について改善の余地がある。 ・通信で紹介はできなかったが児童の行動に対してその場でフィードバックしていた。 ・各行事で振り返りを確実に行うことで、自己の成長過程を可視化できていた。 | 4 | 3 | 4 | ・貢献活動のレベル別掲示を各教室に掲示し、児童と貢献活動について共有する。 ・行事後の振り返りの徹底と振り返りの内容を生かした行事内容を立案する。 |
| 1 | 自主性・自律性の育成 | 新規 | ・自主的に体力づくりや健康づくりに取組む子どもの育成 | ①外遊びの内容や室内でもできる運動の充実を図る。 ②元気もりもり週間で生活リズムチェックと結果を活用する。 | ・体を動かすのが楽しい児童アンケート90%以上 ・生活リズムが整っている児童チェックシート80%以上 | ・週に1回ロングタイム昼休憩を設定し、外遊びを促したことで、88.3%の児童が、体を動かすのが楽しいと回答していた。 ・93%の児童が朝食を食べたが、十分な睡眠をとっている児童は7%にとどまった。 | 3 | 3 | ・朝の帯タイムを活用し、体力づくりを実施する。 ・元気もりもり週間の予告や結果を確実に保護者に伝えるため、メール配信等も活用する。 ・元気もりもり週間の前に睡眠の大切さについて事前指導を行う。 | ・週に1回ロングタイム昼休憩に加え、朝のダンスを設定し、運動を促したことで、91.9%の児童が、体を動かすのが楽しいと回答した。 ・93%の児童が朝食を食べたが、十分な睡眠をとっている児童は70%に下がった。 ・元気もりもり週間の結果を児童に伝えることで、課題意識をもたせるようにした。 | 3 | 3 | 3 | ・朝のダンスについて、楽しく体を動かせる、かつ毎日継続できる内容を提案する。 ・元気もりもり週間について、予告や結果を児童と保護者に確実にすることを徹底する。 |
| 1 | 子どもの学びを支え、信頼される学校の実現 | 新規 | ・安心・安全な居場所づくり | ①自己有用感や学級への所属感をもてる学級での取組を実施する。 | ・学校が楽しいと答える児童アンケート90%以上 ・子どもを安心して学校に通わせていると回答する保護者アンケート90%以上 | ・85.0%の児童が、学校が楽しいと回答した。 ・96.2%の保護者が、子どもを安心して学校に通わせていると回答した。 ・別室で学習できる場をつくって活用した。 | 3 | 3 | ・保護者と密に連携し、良好な関係を維持する。 ・別室で学習できる場の活用を継続し、個々にあった学習環境を選択できるようにする。 ・オンライン授業の有効活用。 | ・「学びが面白い」授業づくり、行事での目標設定等の取組により、90.3%の児童が、学校が楽しいと回答した。 ・丁寧な保護者連携を行うことで、97.3%の保護者が、子どもを安心して学校に通わせていると回答した。 | 4 | 3 | 4 | ・子どもが主体となる授業や行事を創造する。 ・自他の違いを認め、自他を大切に作る学級づくりに努める。 ・保護者との連携を丁寧に行い、信頼関係を築く。 ・引き続き、別室で学習できる場やオンライン授業を活用する。 |
| | | | ・個性を発揮し、自ら挑戦する教職員 | ①レポートによる振り返り活動を実施する。 ②計画的業務及び業務改善による働き方改革を推進する。 | ・月に1回の振り返りレポートの作成 ・日々の仕事で充実感を得られていると答える職員アンケート90%以上 ・時間外在校時間45時間未満を100% | ・月に1回の振り返りレポートの作成100% ・リフレクションで自己の実践を振り返り、同僚の実践に学ぶことを通じて、91.3%の職員が日々の仕事で充実感を得られていると回答した。 ・日課を見直し放課後の時間を確保したことや会議の持ち方を工夫したことで、時間外在校時間45時間未満の達成率は100%であった。 | 3 | 3 | ・振り返りレポートの交流において他の職員の実践に学ぶ場の充実を図る。 ・二部会の年間の計画、毎月の計画的開催により、担当者任せにしないで、部で協議を行い、実施計画案等を出す。 ・提出物等の期限の視覚化を図り、見直しをもって業務を行う。 | ・月に1回の振り返りレポートの作成達成率は100%であった。 ・職員が日々の仕事で充実感を得られているという回答が90.9%だった。 ・放課後の時間を確保や校務補助員の活用で、時間外在校時間45時間未満の達成率は100%であった。 | 3 | 3 | 4 | ・リフレクションにより、自己の実践を振り返り、他の職員の実践に学ぶ取組を引き続き行っていく。 ・引き続き二部会を機能的に開催し、担当者任せにせず、部での協力体制を整える。 ・提出物等の期限の視覚化を図り、部や担当者間で互いに声を掛け合うなど、見直しをもって業務を行う。 |

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------|-----------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |